

風疹について

マスコミ報道で既にご存知の方も多いかと思いますが、全国的に風疹が大流行しております。感染者の70%以上は男性で、うち20代～40代が80%を占めています。又、風疹は俗に“三日ばしか”（発疹が約3日間続くことから）とも呼ばれたりしますが、いわゆる“はしか”（麻疹）ではありません。潜伏期間（感染して症状がでるまでの期間）は2～3週間で、主な症状としては、発熱、発疹、リンパ節腫脹等があります。発疹のでる2～3日前から発疹がでた後の5日くらいまでの患者さんに感染力があると考えられています。風疹の問題の一つとして先天性風疹症候群があり、特に妊娠初期の女性が感染した場合、先天性心疾患、難聴、白内障や発達に遅れがある赤ちゃんが生まれる可能性があります。過去の事例では昭和39年にアメリカで風疹が大流行、沖縄米軍基地を経て沖縄本島に波及、結果先天性風疹症候群の赤ちゃんが600人以上生まれたとされています。治療については、ウイルスですので抗生物質は全く無効で、唯一ワクチンで予防するしかありません。淡路市でも7月よりワクチンの助成（対象者は広報淡路、淡路市ホームページを参照）が始まっていますが、ワクチン不足の状態が続いております。女性がワクチンを接種する場合は、妊娠していないことと2ヶ月の避妊が必要です。ワクチン接種後に妊娠が判明することがありますが、それが原因で障害のある赤ちゃんが出生したとの報告は現時点ではありません。風疹やワクチン接種に関して詳しいことは、かかりつけ医あるいは最寄の医療機関に御相談ください。

*沖縄の風疹流行を題材にしたノンフィクション「遙かなる甲子園～聴こえぬ球音にかけた16人」、さらにそれを原作としたコミック「遙かなる甲子園」が出版されていますので、御興味のある方は御一読を。

北淡地区 O 医師